

2020/09/07 (月)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書24章32節（新約聖書161頁）

二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

### 言葉を紡いで

イエスの時代の識字率は約3%から10%とされています。ほとんどの人にとって言葉とは話し言葉でした。ユダヤ人は安息日に神の言葉を聴き、毎日子どもたちに伝えて祈ったのでした。

イエスご自身は文章を残していません。残された弟子たちがイエスの言葉を繰り返し思い出しては、イエスは今も私たちと共におられると励まし合い、伝えて文字にしていったのです。

新型コロナウイルスで本を読む人が増えました。読書は知らない世界や人に会えます。遠い過去にも未知の世界にもタイムスリップします。夢中になり、時に心の琴線に触れます。そして自分の無知を恥じながら、世界が広がる喜びを感じます。

人は苦楽を共にして感じ、受けとめ、励まし合い、言葉を紡いできました。読書はそれを遡ることです。心に残る言葉は時空を超えて共感を、未来を生きる人へ希望を与えるのです。

(しばらく黙祷しましょう)

祈祷 祈りましょう

わたしたちを愛し、励まされる主よ。台風の影響を受け避難生活をされている方々を覚え祈ります。また公共交通機関が遅れ、学校へ急ぐ子どもたちがいます。どうかその道筋をお守りください。今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びの時となりますように。主イエス・キリストによってお願いします。アーメン